

会議議事録（要旨）

会議の名称	令和８年度 第１回鳥取市地域福祉計画・地域福祉活動計画 作成委員会
開催日時	令和８年８月２５日（火）１３：３０～１５：１５
開催場所	鳥取市役所本庁舎 ６－３，４会議室
出席者氏名	別紙（委員名簿）
欠席者氏名	中尾委員、川口委員、小林委員、上島委員、竹川委員
事務局職員氏名	小森地域福祉課長、大島地域福祉課参事、清水地域福祉課課長補佐、山内地域福祉課総括主査、久野中央人権福祉センター所長、渡邊長寿社会課課長補佐、藤木中央包括支援センター所長、西尾健康づくり推進課長、玉川こころの健康支援室室長、藤田協働推進課長、田川危機管理課長（以上鳥取市）、宮崎地域福祉課長補佐、城野地域支え合い支援課長、田中地域支え合い支援課参事（以上鳥取市社会福祉協議会事務局）
会議次第	１ 開 会 ２ 委員長あいさつ ３ 議 事 （１）地域福祉ネットワーク・支えあい推進事業について（資料１） （２）計画の評価及び重点取組の進捗状況について （資料２，資料２別紙、資料３－１～３－４、資料３別紙） （参考資料１，参考資料２） （地域の「話し愛・支え愛」推進事業モデル地区事業取組報告） （３）その他 ４ その他 ５ 閉 会
配付資料	資料１ 令和８年度地域福祉ネットワーク・支えあい推進事業 資料２ 地域福祉推進計画に関する評価指標（活動指標）７年度実績 資料２別紙 評価の考え方 資料３-１ 実施計画ロードマップ１（重点取組１） 資料３-２ 〃 ２（重点取組２） 資料３-３ 〃 ３（重点取組３） 資料３-４ 〃 ４（重点取組４） 資料３別紙 実施計画ロードマップ 令和７年度の目標達成状況 参考資料１-１～１-４ 令和７年度事業・取組の状況（重点取組関連） 参考資料２ 鳥取市社会福祉協議会重点取組関連事業 ７年度実績 冊子 地域の「話し愛・支え愛」推進事業モデル地区事業取組報告 その他 次第、委員名簿、座席表

議事内容（要旨）	
事務局（市）	・ 開会 ・ 委員長あいさつ ・ 交代委員紹介 ・ 出席者の確認
坪上委員長 （進行）	議事（１）地域福祉ネットワーク・支えあい推進事業について、説明をお願いします。
事務局（市）	資料１ 説明
坪上委員長 （進行）	事務局からの説明を受けて、委員の皆様からご質問等ございませんでしょうか？
G 委員	私は気高町にいますのですけれども、この資料によると新市域は各町の総合福祉センターが、地区コーディネーターの役割を担っているということでございます。おっしゃるとおり実証されているかということと、どういう手法でやっていくかということですね。地区公民館がうちの場合５地区ございますし、年に１ヶ所追加なのか、それとも均等にやっていくのか、もしそういったことがわかればよろしく申し上げます。
事務局	市社協の立場からの話になりますが、今ご質問のありました総合福祉センターの中でということですが、合併地域、合併してもう２２年になろうとしておりますけど、社協も８町にそれぞれ総合福祉センターを持っております。そこで所長以下、地域福祉担当を配置しておりますので、そちらですでに長年、地域福祉に関わります内容も従来から取り組んでおりますので、イメージとしてはそういった地域福祉担当の職員があつて、地域と一緒にやって地域福祉活動を進めていくという、そのスタイルをずっと続けております。 それに合わせたような形で鳥取地域におきましても、計画の中では公民館等を拠点にということですので、修立地区・明徳地区でスタートし、平成１１年からプラス３地区を目指しています。今後の展開では多数の地区公民館がありますので、こちらについては今後の計画の進捗状況も含めて、どういう展開になっていくかなと思います。
C 委員	資料に地区コーディネーターの、主な取り組みの内容が書いてありますよね。この内容は、今まで皆さんの地域でやっていることのような気がするんです。ただコーディネーターという名前に変わったまでのような気がします。資料にネットワークの図があり、地区コーディネーターは連携、調整役と書いてあるんですけど、その他いろいろな団体の調整役、それから連携が主なコーディネーターの役割になるのか、漠然としてわかりにくいのと、地区コーディネーターがどこまでの専門性があるかということが具体化されてないので、その辺はどのようなお考えをしておられるか、お尋ねしたいと思います。
事務局	地区コーディネーターの役割が少しわかりにくいのではということと、専門性についてのご質問だったと思います。 地区コーディネーターがこれからいろいろ取り組みをするのに調整をすることになりますので、地区によって状況にそれぞれ違いがあると思いますので、よく地区の皆さんとお話をしながら、調整をしていくということになろうかと思います。

	また専門性につきましては、市社協に委託をしておりますので、そちらにつきましては経験がある方を基本的にはお願いしています。
C 委員	今 2 地区で、4 月から実施しておられるんですが、コーディネーターの養成は行政はやってないんですか。ただこの人がいいから選ばれましたっていう形なんですか。
坪上委員長（進行）	コーディネーターは、今は市社協の職員が配置してあるということですよ。
事務局	その通りです。市社協の経験を積んだ職員を配置させていただいております。コーディネーター自体は専門的な部分は持っておりますが、多角的にはいろいろな地域課題があると思いますので、包括支援センター等へのつながりも含め、あらゆる専門機関とも連携をとりながらやっていくというスタイルをとっています。
坪上委員長（進行）	C 委員よろしいでしょうか。 明德地区と修立地区で何か違いがあるんでしょうか。コーディネーターさんでもこういったところに力を入れてるとか。それとも同じようなレベルでお考えでしょうか？
事務局	元々初めにありました、地域の「話し愛・支え愛」推進事業、というのが前身で、令和 3 年から 7 年度まで実施して、皆さんに報告を冊子としてお手元に届けさせていただいておりますが、修立・明德地区それぞれで特色があると思います。 修立さんにつきましては、昨年から事業で健康等を中心に防災の取り組みを既にされておりましたので、そのあたりの視点から、今年も継続して高齢者に限らずフレイル予防の指導等も今年度やっていこうとしております。また支え愛マップ等にも力を入れていこうというのが修立のやり方です。 明德地区につきましても同じような部分もありますが、従来から参画していただいております介護事業所の皆さんが、地域に開けた介護事業所を目指していらっしゃるので、そういった視点からも取り組みをそちらの方にも広げていきたいと思いますし、防災の関係も明德地区さんもかなりの関心度で、かなり高い意識を持っていらっしゃいますので、そちらの方も一緒に行って話をさせていただいています。 いずれにしても、いろんな声が皆さんから聞こえておりまして、あれもこれもいっぺんにはできませんので、一つ一つ積み上げていきたいと思っております。
R 委員	今の説明で、コーディネーターは 5 年なら 5 年は移動しないということが基本でしょうか？過去の流れからいって私が非常に危惧しているのは、コーディネーターの方と地域の方が、いわゆるコミュニケーションが取れたなという頃には、鳥取市社協さん過去の流れで誠に失礼ながら「代わりました」。これだけ人材不足かというのは、地域に関わっていらっしゃる方はほとんどそう思っていらっしゃるんじゃないかと感じております。その辺いかがですか。5 年間。
事務局	今 R 委員が言われたのは、市社協の生活支援コーディネーター、従来から設置しており市社協地域支え合い支援課に今年度は 8 名おりますが、まずこちらにつきましては 2、3 年で人事で異動して、地域にせっかく慣れたのに、というところがあるかと思います。こちらについては非常に私ども本当に申し訳ないところもあるんですが、法人全体の中で若い世代に経験を積ませていただいております

	ので、生活支援コーディネーターについてはそんな状況が今も続いております。 ただこの地区コーディネーターにつきましては、その地区に特化した職員配置という形をとっております。スタートしたばかりですし今後の先々のこともあります、年度年度積み上げていく事業として考えておりますので、基本的には今の職員の配置につきましては、何か特別なことがない限りはずっと継続していきたいと思っております。
坪上委員長（進行）	コーディネーターは常駐という考え方でよろしいですか？
事務局	修立地区につきましては常駐の形をとっております。 この事業が始まる前に両地区にお話をさせていただきまして、修立は常駐できるとなりました。ただ明德は、公民館の中で配置するスペースがない、今の公民館職員さんでいっぱいという状況がありましたので、ではどうしようかと考えた結果、通い式で、さざんか会館から今、週に2回、月曜日の木曜日の半日ずつ明德公民館に行き来をさせていただいてるというスタイルで、二つのパターンで今取り組んでるところでございます。
C委員	私の考え方としましては、やはりただ人を増やせばいいっていうものじゃないと思うんですね。やっぱり地域は、原点は公民館だと思うんです。その公民館が今機能していないっていうのが現状なんですね。そこをきちんとすれば、こういうコーディネーターとか人を増やすというようなことはしなくても、これだけ人を減らしたい時代ですのに、人がいないから。それなのに、何でもかんでも職員を増やして、常駐させるとか、そういうことになっちゃうんです。 だからもう少し公民館の機能をきちっとして、みんなが寄ってくるような、相談のできる、そういう公民館作りをした方が私はいいような気がしますけどね。いかがなものでしょうか。
事務局	昨年度までは、話し愛・支え愛推進事業ということで、計6地区で取り組んでおりました。話し合い・支え合い・それから学び合いというようなことをやってみようということで取り組んだんですけれども、そのときの課題といたしまして、やっぱりその調整役、中心となる人材が必要だということと、それから活動の拠点が必要だということが課題としてございました。 そういった課題を踏まえまして、8年度から新たにこの地域福祉ネットワーク支えあい推進事業というのを2地区でモデル的に取り組んでいるところでございます。今回明德と修立で取り組んでいるんですが、活動の拠点としては地区公民館を使って、コーディネーターを配置して、まずはモデル的にやってみようということでございます。 こういったモデルの事業の成果、それから結果を踏まえまして、この公民館のあり方や機能をしっかりと検討していったって、地域の福祉ネットワークを継続していくためには、公民館はどうあるべきかということも踏まえて一緒に検討してまいりたいと考えております。
C委員	それは地域で要望として出てるんですか。行政にそういうものを増やしてくれっていう要望が出てるんですか。いかがですかその辺は。
事務局	要望として出てるというわけではないんですけれども、やはり地区の中でどの

	地区にもある最も身近な公共施設ということで、地区公民館というのがあります。そこを積極的に活用するのは大事ということがありますので、今回公民館やその地区にある公共施設等も拠点として位置づけて、そこで活動してはどうかということで、鳥取市社協と一緒にやっているという状況でございます。
C 委員	でもそんな単純なものではないと思います。コーディネーターを増やしたからといって、そこに集まってくる人が増えるのでしょうか。
事務局	コーディネーターが公民館に常駐することによって、拠点となる公民館を中心に事業が回っていきますので、当然参加される方は公民館に集まってこられるという状況になります。そういったところをモデル的にやってみようということで、我々も人の流れ等も含めて注視をしているところでございます。
坪上委員長（進行）	私達委員の中で、推進計画の中で、2 地区をモデル的にやってみようということです。それはもう決まったことですので。 他の皆様はいかがででしょうか。意見等はございますか。
P 委員	なかなかおっしゃりにくいことだと思うんですけど、今年度はどの程度まで各地区は動きを進めていこうと思っておられるか、オフレコの部分もあると思うんですけども、そのあたり良かったら教えていただけたらと思います。
事務局	まず 2 地区の方なんですけど、現状の報告をうちの課長からお話させていただきましたけど、明德地区の方については、できたら今年度中には 1 回ネットワークの会議を開けたらいいかなということで、どちらかというと明德優先ですが、団体さんとの聞き取りをしながら、そういったメンバーさんの中から、コアメンバーさんをネットワークのメンバーさんという形にさせていただきながら、こういった状況がこの地域の中で起こっているというようなことを報告させていただくということで、コーディネーターの方が調整役として、最低 1 回、年度末までに 1 回できたらいいかなと思っております。 修立さんの方につきましては、どちらかというと今は令和 6 年度・7 年度の地域防災からの取り組みを優先させていただいて、防災×まち作り、フレイル予防ということで、それを継続しながら、同じように明德さんと同じような形での各団体の聞き取りをさせていただいております。こちらの方はどちらかというとまち協さんと公民館さんが主で動かれていたということがありましたので、それらを少し繋いでいきたいなという、若干修立の方については明德よりは後回しになってしまうかもしれないんですけども、時間をかけてじっくりと入ってきたいなという現状でございます。
坪上委員長（進行）	他にご質問等ありますでしょうか？M 委員さん、どうぞ。
M 委員	今地域では、地区では、コミュニティがぐちゃぐちゃになってしまってるんですよ。そのために立て直す、そのためのコーディネーターじゃないんですか。福祉を通したまちづくり、そのためには、コーディネーターはやっぱり指導的な立場というか、支援的な立場でやっていこうと。それで地域の立て直しをやっていこうという話じゃなかったのではないかなと思うんですよ。ただコーディネーターだけが何かをするという話ではなく、本当に根本的なものを立て直していかんと、どの政策も絵に描いた餅で終わっちゃうんだらうと思う。ですからもう一

	度やり直した方がいい。
事務局	今M委員がおっしゃったように、明德・修立を実証地区として取り組んでおりますけど、今委員が言われたような地域の声というのは聞こえてまいります。これからの時代のあり方、これからの地区のあり方というのがやっぱり大きな焦点になってきますので、今はやはり足元の状況を確認しつつ、立て直しといいますか、これからの未来のあり方を皆さん期待してくださってると思いますので、そのあたりを汲み取って、地域の皆さんと一緒に考えながら進める、というのが目指すところかと思っております。一足飛びにはできないかと思いますので、順次積み上げていくという形をとりたいと思います。
M委員	はっきり申し上げて、コロナの5年間で、地域で会合がなくなってるんです。もう何しなくても務まる。何もしないのが一番いいという変な考え方になっちゃって。葬式にしても家族葬であったり、昔は村中や町内で集まってやってたもんですけど、そういうところもないし、町内会の未加入率にしてもかなり高い。そうするともう本当に何をしたところで、もう困難ですよ。それをつなぐには何かということになる。最低限福祉じゃないだろうかということで、そのコーディネーターは何をする人か。だからC委員の話にもあるんだけど、コーディネーターは何をするんだ、という話。今までのことをするんだったら全部潰れてきてるんじゃないか。それでは成り立ちませんよという話を多分された。だからもう新しい点というか、思い切ったことをやっていかんと改善されないとは思う。
坪上委員長 (進行)	M委員が言われましたけど、そういったことも含めて、踏まえた上で進めていただきたいと思います。M委員よろしいでしょうか？ その他ご意見ございませんでしょうか？
E委員	一点、皆さん方のご議論とか事務局さんとのやり取りなんですけども、先ほどご紹介いただいた、本編の74ページに重点取組つていう文章が数行ありますけれども、これに対しての評価指標というのがどうしてもネットワークの数だとか何かの数ばかりで数的な変化の評価になってしまいますので、おそらく今何人かの委員さん方がおっしゃったような、現状の課題認識はこうなんだということも皆さん方おっしゃってますので、数値的にはこれで仕方がないとしても、もう少し評価指標として定性評価といいますか、定量だけではなくて状態の変化を、やはりコミュニケーションが希薄になってきている等っていうことはもう間違いなくはっきりしている課題ですから、何かコーディネーターがその思い切ったことであれ、何か仕掛けていったことで、少しずつでも状態が変化してきてるっていうことを表すような評価指標を出していかないと、おそらくどれだけ変わったのかっていうことは表せないのかなと。ましてここに書かれているようなそのサロンですとか、ネットワークっていうものはもう先ほど、特にC委員もおっしゃったようにもう既存のものじゃないですかっていう話ですから、既存のものの数が増えた減ったっていうことが、コミュニティの再生に結び付いてるっていうことでは多分ないと思いますので、場合によっては既存のものを解体して再構築した方が、ネットワークが強くなるものもたくさんありますし、既存のものを繋ぎ合わせて、新しいものを生み出すっていうこともあると思いますので、何か新しいものばかりを作り出すのではなくて、今あるものが果たしているこの地域の

	希薄化、ネットワークの希薄化が強化に繋がるような使い方とかですね、役割を変えていく、そういう面をコーディネーターが見つけて、少し小さな芽をいくつか昇華させて、少しずつ地域の皆さん方が集まる場所が増えてきたとか。これはどこでもですけども、公民館の地域における機能の問題っていうのは、もうこの自治体においても大きな課題になっているところですので、改めて公民館という古い社会教育の施設から、今は福祉も含めた地域のコミュニティのセンター機能を持っている場所だということの変化の兆しを変化指標として出していけるように、公的なその施設の役割も少し変化してきた。地域住民の人たちも既存のものに参加しながらも意識が変わっていった、やっぱり住民同士つながらなきゃ駄目だなんていう言葉が少し聞こえるようになってきたとかっていう。そういうような状態変化を少し評価指標の中に盛り込むようなことを意識化されてはどうかということでございます。
事務局	ありがとうございます。計画はよく目標値を定めて、そこに向かってどう数字が上がっていったのか下がっていったのかっていうのを数字の動きだけで判断しがちなんですけど、やっぱりそれではおっしゃるように駄目で、この取り組みによってどういう変化が起こったのかっていうところは、やっぱり重点的に評価をしないといけないなというふうに思っておりまして、またこの後事務局の方から説明をさせていただきますけれども、数値が上がったからといって高評価というわけではなく、総合評価としてどういった変化が起こったのかということも含めた評価を、また説明させていただいて皆様にご審議をいただきたいというふうに思っております。それからその資料1の真ん中にあります、コーディネーターの主な取り組みも示させていただいておりますが、これを全地区でハンコを押したように、全ての地区のコーディネーターがこういった取り組みをやっていくんだというのではなく、やっぱりその地区毎にいろんな特色・特性がありますので、それに合った地区作り、福祉の視点でのまち作りを、コーディネーターを中心としてやっていこうということですので、そこは地域の福祉ネットワークが形成された中で、関係する皆さんが集まって話し合う中で、その地区にあったまち作りというのは、福祉の取り組みというのはどうなのかというのを、モデル地区で検証していきたいと思っております。
坪上委員長（進行）	よろしいでしょうか？時間の方も迫ってきておりますので、次の議題に進みたいと思います。 議事（２）、計画の評価および重点取り組みの進捗状況について、事務局の説明をお願いします。
事務局	資料2、資料2別紙、資料3-1～3-4、資料3別紙、参考資料1、参考資料2、冊子（地域の「話し愛・支え愛」推進事業モデル地区事業取組報告）説明
坪上委員長（進行）	事務局からの説明を受けまして、皆さんの方からご質問ご意見等ございますでしょうか？M委員どうぞ。
M委員	少し言葉は乱暴なんですけど、数字だけはいいい数字が上がっている。でも中身をよく考えれば、話しあいのモデル地区のところを重点に点数を上げている。逆に言えばこの表の作り方は、そこだけの表を見れば鳥取市よくやってるな、市社協よくやっているという評価しかできんだけど、実際に鳥取市全体でどうなるか

	という問題がある。市民は2地区だけが市民ではなく、他のところも市民なので、それはどうなるのか。だからその数字もやっぱり並行して出すべきであったんじゃないかな。確かに計画の話だから、そこだけで止めりゃいいのかもしれないけど、やっぱり鳥取市としての全体の数字を見るためには、数字しか評価できないので、そこも欲しいなと思いますし、どう思われていますかということをお尋ねしたい。 それとここに市社協もそうだし、つながりサポーター、だから鳥取市もそうなんですが、同じような役目ばかりで整理ができてない。ずっと計画を立てて、それでなおかつ整理ができないまま、数字だけを上げてきて数字の上澄みだけを喜んでいる。先ほど、実際には中身は何をしてるのかと、この二つをしっかりとやれば、本当に地域福祉計画はしっかりできるよという判断があるんじゃないかなと私は考えてます。その2点ちょっと教えてください。
事務局	ありがとうございます。全市的にはどのように考えているのかというのが一つと、いろいろな役割が重なっていて整理できていないのでは、ということだったと思います。 まず確かに話し愛支え愛推進事業のモデル地区につきましては2地区ですし、今年度から展開をしております支えあいネットワーク事業につきましても、実証ということで、モデル地区で進めているということで、全市的に見ればまだまだなのかなとは思っておりますし、ただ今一足飛びに全市に広げることもなかなか難しいところがございますので、計画のロードマップに沿って、一步ずつここは進めていきたいと考えております。 あと役割につきましては、現在確かにおっしゃる通りいろいろな似たような役割がありますのでそこは整理をしていきたいというところでございます。 この点につきましては、社協さんの方からもよろしいでしょうか。
事務局	M委員がおっしゃられたのは、おそらくあのつながりサポーターの件と、今回実施しております、となり組福祉員と愛の訪問協力員のことをおっしゃったのではないかと感じております。 となり組福祉員も愛の訪問協力員もそれぞれ歴史が長い事業となっております、精査が非常に難しいということで今まで見直しを延ばしてきたような経過がございますけども、いよいよ今年度中に見直しの委員会を立ち上げまして、次年度から実施というのはなかなか難しいかもしれませんが、なるべく近いうちに、なんらかの方針を出したいと考えているところでございます。整理の必要性というものは、我々としても感じておるところでございます。
M委員	別に鳥取・島根は数字を出すのは簡単で、アンケートをとればいいんですよ。地区ごとに大雑把なアンケートでいい。そうすれば傾向をつかめると思うんですよ。だから、2地区だけで粛々とやっておりますと。40何地区あるのに2地区、5地区ですって何年かかるのか。それも例えば5年や6年で終わったら、最初にしたところはもう6年も経ち古い施策になる。だからスピード感を持ってやらんと意味がないんですよ。必ず取り残される人がおるんです。社会的弱者は取り残されるんです。行政がそれでいいんですか。 それともう一つ、となり組福祉員や愛の訪問協力員だけを言っとるんじゃない

	です。同じようなところに、鳥取市と社会福祉協議会が同じようなものをして、でもそこに参加して資格を取る人は同じような人なんです。だからもう一つ、鳥取市と社協とはここまでスクラム組むなら、しっかりとスクラップと整理をして、皆さんに、地域にお願いする方が早いんじゃないですか。単体でこういうものがあります、あんなものがあります。だから何をやっとするんだかわからなくなってくるんですよ。そのことを言いたいんです。
事務局	ありがとうございます。確かに、なかなかアンケートは取れてはいないですし、スピード感をもってできるかどうかというところもあるんですが、各実証地区でやっていくことを検証していくという大事な作業を行っておりますので、検証していきながら早めに進めていきたいという気持ちはございます。 あと役割の整理につきましても、市と市社協と、市の中でもいろんな役割を持っているものがございますので、それにつきましても少し整理をして、皆さんにお示しをすることは今はできないんですけども、また整理ができましたらこちらの方に報告させていただくなり、お話ができたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。
C 委員	別に行政の方が推進とか支援とかやっておられるのを、私はそれは認めたいと思いますし、こうして書いてある文書もきちっと書かれているのはわかりますが、ただこういう何か枠にはまったような書き方では、やっぱり地域福祉というのは、これからは少子高齢化社会ですから、みんなで共存するためにはまず意識改革が大事なんですね。 私こないだ、私は一住民で何も役をしているわけではないですが、自分で人権センターに足を運びました。やっぱりこういう文書よりは DVD を見せた方がとてもわかりやすいですね、住民は。全く知識がない方でも、もう食い入るようにして見てね、後から質問させてもらいますよ、何でもいいですよ、ということで、いろいろ勉強をさせていただいております。 この間は郡部の方に行きました。郡部はとても大変なんですね。子供さんも少ないしお年寄りばかりで、それでもやっぱりどこかの団体と手を組んでうまくやっているんですね。やっぱり捨てたものではないなと。これは取材に行ったのは鳥取県の人材センターの関係で行かせていただきました。やっぱり婦人会があつたりとか、子供会があつたりすると、そういうふうに福祉もお互いに機能しているんですね。 だからこのように計画を立てておりますけれど、それなりに自分たちで工夫しながら地域を支え合っているってということで、私も勉強させられましたけれど、やはりもう少し住民に意識改革ができるようなやり方があるんじゃないかなと私は感じておりますが、どのように思っておられますでしょうか？
事務局	ありがとうございます。今意識改革とおっしゃっていただきましたけれども、まさしく福祉学習を、これから力を入れていこうというのがそちらに当たるのかなと感じました。福祉学習をすることによって、地域の皆さんを福祉に関する意識に目を向けていただいて、意識の向上を図るところがございまして、それによって少しでも興味を持っていただいて、人材の育成につながったということで目標の一つに掲げているところでございます。

	先ほどおっしゃった、ビデオがいいというのはすごく参考になるかと思ってお聞きしていたんですが、福祉のネットワークのある地区だけではなく、それぞれの地区のいろんな取り組みもございますので、そういったものを通じて、少しでも住民皆さんの意識を向上することができたらと思っております。
C 委員	もう少し住民が楽しくできるような工夫っていうのは、これからは大事だと思うんですね。どうしてもこういう文書を出して難しいことを言ってもなかなかじまないとこがあるんで、活動でも勉強でも何でもそうですけどね、笑いがあって初めて継続できるんです。で私はもうこの 20 年近くなるんですね、サロンをして。でも定着してきて、いろんなことを勉強したりとか、それから自治の勉強をしたりとか、ありとあらゆることをしながら、世の中がこのように流れてきてるんですよというふうに、高齢者の方もいろいろ体験したりとか、活動したりとかしてるんでね、その辺のところをもう少し楽しくできるような工夫を、これから考えていただけたらなというふうに思ってます。
坪上委員長（進行）	ありがとうございます。C 委員の言われることは非常に重要なことなんですけれども、やっぱり 1 人 1 人の意識が変わってもらわないと、今言われたようなことは難しいんじゃないかなと思います。これから公民館活動を中心にして改善していこうということです、少しずつコーディネーターを配置しながら重層的にやっていく活動だと思いますので、ご理解いただきたいと思います。 その他ご意見等ありますでしょうか？
S 委員	自治会は自治会の中で助け合いながらやっておるわけですが、要支援者、避難行動要支援者ですね。これ自治会に加入していない人の分も地区会長に行くわけですね。その地区の自治会長困ってるんですよ。なんで自治会に加入していない人間の分までやらなきゃいけないのかと。まあ防災のこともありますしね。だけど、アパートとかに住んでおられる人はなかなか自治会に入っていないということもありますし、だから加入していない人の分まで地区会長に行くのはどういうことかなと思って、ちょっとご相談です。
事務局	避難行動要支援者の方がいわゆる個別避難計画を作られたら、地域のいわゆる支援組織ということで、町内会長さん、民生児童委員協議会さん、地区社会福祉協議会さんにお渡ししています。というのは、おっしゃるように入会・未加入の方がいらっしゃって、加入されていない方を町内会で何とかしてというのは、なかなか確かに難しいんだらうなというのがわかりますので、ただ同じものを、先ほど言いました三つの団体さんには持ってもらう。あともう一つ言えば、自主防災会さんにも同じものを渡していただくようお願いをしていきます。ですので、それぞれの地域で、その名簿の方を誰がどうやって実際に災害が起こったときにどうしようかなとか、災害が起こったときに備えるためには普段からどういう関わりを持たないといけないかなっていうことを、我々としては、地域の中で話をさせていただいて、これは民生委員さんお願いとか、ここは町内会に入っとんから自分がやろうよとか、そういう話し合いをぜひ持っていただきたいなと。我々としては、これを自治会だけにやってとか、民生委員だけにして、とは思ってないんです。なので同じような名簿を皆さんにお渡しして、皆さんで話をさせていただいてという考えを持ってお渡ししているということです。

S 委員	だけど、自治会長さんは、自治会に加入してない人の分までよう面倒見んと。普段は自治会費も何も払ってない、地域のことに何の協力もしないのに、困ったときだけ世話になる、というのは、なかなか人間として想像が、できますよね。
事務局	このお話は以前から自治連の会議でさせてもらったときに、何度かお話を聞かせていただいております。本当にそれでいいんだろうかなって個人的には思ったりするところがあります。例えば全く何も知らない人だったらあれかもしれないですけど、知ってるけどこの人自治会に入っていないで、顔はよく知ってるけど自治会に入っていないから助けないよって、本当にそういうことってあるのかなとか、いろいろ思うことはあります。ただ、それが自治会や自治連合会のような中で、何か取り決めされるのであれば、それはもう仕方がないのかもしれないです。ただ、そうであっても、その人を自治会ではなく地域の中でどうするのかっていうのを、一緒に話してもらうことはできるんじゃないかなと思うんです。入っていない人は民生委員さん頼むわ、っておっしゃったらいいわけで、そういう感覚で私はちょっと思ったりします。
坪上委員長（進行）	S 委員、今のはよろしいですか？
S 委員	納得はしませんけど。自治連合会でも会合の時にしょっちゅうこのことが出るんです。なんで私らがやらなきゃいけないのかと。
R 委員	私は自治連さんには、昨日、鳥取市の自治連の会長に立ち話で話はしたんですが、加入率が減ってきとるというのは、やっぱり自治連さんに、本当に言葉は悪いんですけど、企業努力していただかんといけんと思うんですよ。やっぱり弱い人にも手を差し伸べるという、この会議はまさにそうじゃないですか。だから加入しとらんから助けんって、この間も大山に県外の人に来て遭難しました。ヘリコプターが来て、たくさんの方が関わっております。県内だけ助けてって言えますか、言えんわけでしょ。だから結局そのために、ロードマップの話も半分ぐらいしか私には理解できなかったけど、もうちょっとわかりやすくしてほしいと思います。もうちょっとはっきりとしてほしいし、それから今の自治会の加入の問題も、民生委員はそれでもみんなが足を運んでいくような形になつとるわけですよ。だからやっぱり区長さんになった人は、自治連の会合のときに自治連の会長・役員は面倒でも新規の加入の人に足を運んで入ってくださいよと、行政も一緒になってその人のところに足を運んでいくような努力をしていかないと。先ほどの話にあったように、地域が疲弊しているというのは、町内会に入っていない人は、回覧は要りません、ゴミは出させてください、というようなことばかりやってるから今の状態が起こってるわけですよ。 だから少なくとも区長さんになる人は、地域の課題を持って出てください。それから、困ったことは声を上げてくださいということを、自治連さんにも常にお願ひしたいなと。
S 委員	自治会から脱退するのは、町内会費払うのが大変なのもありますし、それから、街灯とか電気代そういったものが自治会にかかってくるわけですね、町内会の電気代とか。本当は自治会に加入するのは行政がやらないといけないということだと思う。

坪上委員長（進行）	非常に難しい問題だと思います。人間ですから、感情というものもありますので。ただ、今ここでやっている話の中では、確かに理想としてはそういったことで、全ての人に自治会に入っていて、というのはよくわかると思います。
事務局	先ほどからいろいろ皆さんのお話を聞いていまして、いわゆるコミュニティが希薄化してる中で、どうやってまち作りをしていこうかというのが、地域共生社会を作っていくというのとイコールのことだろうと私は思っています。 こんな話を聞きました。ある地区で、一人暮らしの方が亡くなっておられるのが、二週間くらい発見が遅れてしまったということを地域の方がすごく悔やまれたというかショックを受けられて。地域こんなじゃいけないで、ということで、いろんな方々が集まって、まずは顔合わせからしようっていうことで集まり会を持たれて、それはすごく良かったと、これからも続けていきたいというような話を聞きました。その方が自治会に入ってるかどうか私は知りませんが、やっぱり何かこれはいいきっかけとは言いませんけども、例えば最近災害がたくさん起きて、高齢者の方が亡くなられたりとかする中で、やっぱりみんなで助け合っていこうというようなことが、見守りしていこうということが、地域の中でみんなが考えていただけるような、そういうものを作っていきたいと思っていますので、そのためには、おっしゃるように、自治会の加入率を上げる努力も必要かもしれませんし、公民館のいろんな対策も必要かもしれませんし、なかなかいっぺんにはできないかもしれませんが、そういった地域を作っていこうというところが、例えばこのモデル地区の取り組みをやって、それを好事例としていろんなところに広げていきたい。これが行政の我々の仕事ではないかと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。
坪上委員長（進行）	よろしいでしょうか。 では次はM委員お願いします。
M委員	事務局に問いますけど、今日民生委員のQ委員さんが来ておられないので、何でもかんでも民生委員に押し付けると、今はそれじゃなくても欠員が多いのにまた役職だけもらうのか。なのでそれを安易には言わない。 あるいは私は、孤独はいいですよ。自分でできるから孤独を楽しみたい、一人暮らしを楽しみにしたい人がいる。だけど地域での孤立はいけないですよ。孤立だけはさせないように、やっぱり地域で見守っていく、強力な支援をしていく。それはやっぱり本人との確かめしかないんです。だから、孤独がいい悪いではなしに、孤立は駄目だという言葉だけはしっかりとキーワードとして残しておきたい。民生委員だけに仕事を与えないでください。
事務局	孤独が悪いわけではなくてやっぱり孤立させないようにというのは非常に大事だろうなと思います。 あと民生委員さんにいろんな仕事を頼んで、負担が増えないようにというお話を、M委員さんも民生委員さんでもいらっしゃるんでよくご存知だと思います。今我々が、民生委員さんに欠員が続いてとか、いろんな状況がある中で、民生委員さんの負担を軽減するというのが、どうやったらそうできるんだろうということもあってまして、例えば支え愛マップを作るということで、小さい単位の集落で、この人には私が声かけする役割をする、この人には私が行く、ということが地域

	の中でできてくれば、民生委員さんが定期的に訪問活動して安否確認しなくても、その人が今日大丈夫だったという情報が共有できる仕組みが作れば、民生委員さんの負担ってすごく減るんじゃないかなと、こういう話も聞きました。 サロンに行って、この人元気だ、ちゃんと来とんさるわ、っていって、民生委員さんは運営のお手伝いを頼まれてるわけじゃないけども、そこに行けば顔が見えるんで、それでいいって言ってますって話も聞きました。まさにそういうことで、サロンを運営してる方が民生委員さんに、今日この人来てたから大丈夫、っていうような情報共有ができる仕組みがあれば民生委員さんの負担軽減にもなるんじゃないかなとか、いろんなことも考えながら民児協さんとも相談させていただきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。
M委員	一言、それに反応して。民生委員は1町内会の1人じゃないんです。1人の人間が複数の町内会を預かってるんです。それが複数の町内会に顔出せるかという問題もあるんです。ですから、本当に簡単ですよ、顔出しんさいな、手伝いんさいなっていうのは。だけど現実には民生委員も生身の体なんで、そう簡単にはいかない。そんなところをフォローしっかりとお願いします。
坪上委員長（進行）	時間の方も迫っております。よろしいですか。
P委員	議論を聞かせていただいて思ったところがあるんですが、地域福祉ネットワーク支えあい推進事業のことについて、今年度から本格的に取り組んでいらっしゃるということで、これは地域福祉計画にも上がっているし、この会で、本来これをやっていきましょうって話し合ったことなんですけども、どうしても議論が後戻りして、なぜこの事業やってるのかみたいなのところからまた議論するような感じがあるのが気になって。もうやるということについてはもう決まっているし、それについてどう見ていくのかっていうのは、地域に入ってどのような気づきがあったか、そしてどのような成果を期待できるかを正直言うと聞きたかったので、それで私最初に質問した中で、まず実際入って見られてどのような感触を得られたかっていう質問をしたのがその部分でした。 その部分をこの場で何か議論したいなというところがあったので、ちょっと申し訳ないんですけども、資料1で説明をするとやっぱりこういう感じの説明の仕方になっちゃうと、なんでこんな事業をしなきゃいけないみたいなのところに戻ってしまうことがあるので、私は今回の議論としては、さっきおっしゃったようにそこに入って5ヶ月経ってみて、どういう気づきがそれぞれあって、特色がこうで、こういうところに難しさを感じたであるとか、あるいはこの部分にかなり住民さんの意識が強く表れているところがわかった、住民さんのところに入って見て、次こうヒアリングしてみたらこんなところが見えてきた、ということが知りたいなと。 そこが見えてきたら、多分今日参加しておられる皆さんにとっても、なるほど、こういうモデル事業をしていることの意味があるんだなっていうところに議論の視点がスライドしたんじゃないかなと思ったので、その部分を次回お願いしたいなと強く思います。皆さんの、もう1回この事業について根底からひっくり返すっていうか、元に戻すような感じにならないように、そこは次回は変えていた

	だけたら、と思いました。 それから評価の仕方について、数値化で物事を見てしまうと、どうしても中身の部分が反映されてないというか、評価されてないと感じてしまわれる点があると思うので、そこはもう一つ、数値とは別のところで、実感としての進捗状況を、時間を持って話をしていただけるとありがたいと思いました。というのが、評価項目に挙がっている中で私も関わらせていただいている面があって、それが開催回数で見られるとちょっと残念な感じがして、しかも1回最初に作った計画の中からだんだん中身が変容して行って、今年度はこういう視点でやってるっていうふうに変わってきているものが、そこには文章として反映されてないところがあって、具体的に言うと相談支援担当者会のことなんですけども、今年度は社協さんとしての関わりはゼロになってしまっているの、その部分についてはどう考えるのか、何か補足があると大変ありがたいなと思ったので。 ちょっと議論の部分をもう少し、一番本当に言いたいのは、社協さんとしての地域福祉活動を、本来だったら社協さん勝手にやってよっていうところを、せっかく行政が今回事業化してお金を出してそれをみんなで見守ろう、そこで新たな活動の良い芽が出てきたら、そこをみんなで全市的に広げていけるように頑張ろうよっていう前向きな会であったはずだと思うので、そこに話の視点を持って、みんなで話し合えるように持っていけたらいいなと思った次第です。
坪上委員長（進行）	事務局からはよろしいですか。 以上で議事2につきましては終わりたいと思います。 続きまして、議事（3）その他について事務局からお願いいたします。
事務局	特にありません。
坪上委員長（進行）	委員の皆様からその他ご意見等ありますでしょうか？よろしいですか。 それでは7年度の事業評価と、8年度以降の進捗管理については、事務局の提案ということで承認をしていただくということになります。皆さんよろしくお願いいたします。 以上で予定されている議事は終了いたしました。進行を事務局にお返しします。
事務局	委員長さんありがとうございました。 そういたしますと、4.その他について事務局から説明させていただきます。
事務局	事務連絡
事務局	そういたしますと本日の会議で予定していた日程は全て終了いたしました。 委員の皆様には熱心なご議論をいただきまして本当にありがとうございました。 以上をもちまして委員会を閉会いたします。